

# 平和・協同・自然のひろば 「らいてうの家」オープン

おぼろげに  
らいてうの会ニュース

発行  
平塚らいてうの会  
〒151-0051  
東京都渋谷区  
千駄ヶ谷  
4-11-9-303  
TEL・FAX  
03-3401-6383

五月二十八日、信州あずまや高原に「らいてうの家」がオープンしました。建設を決意してから三年、

三千人を超える方々からの寄付、「女性九人衆」を名乗る建築士集団の奮闘、それを支える男性たちの応援、上田・真田地域の皆さんの協力、これらが一体となって生まれた「平和・協同・自然のひろば」です。オープンセレモニーは前

夜からの強い風雨で、野外のセレモニーはあきらめかけていましたが、直前になって陽が射してきて「隠された太陽を取り戻そう」と訴えた平塚らいてうの言葉通りになりました。

テープカットは、らいてうの曾孫にあたる奥村ともさんと米田佐代子会長。田中康夫長野県知事に祝辞をいただきました。この日のために作られた「らいてう木遣り」が朗々とうたわれ、地元信州真田の「六文銭太鼓」の勇壮な演奏があり、野外の広場では上田の老舗「お西」の祝いそばと「ラバン」のパンが振る舞われ、地元「おやき」も配られて、光と風に満ちた祝祭の一日となりました。



奥村ともさん(左)と米田佐代子会長



勇壮な六文銭太鼓



田中知事の祝辞に聞き入る参加者



名誉館長は  
羽田澄子さんに

記録映画「平塚らいてうの生涯」

でらいてうへの深い理解を示された記録映画作家の羽田澄子さんに「らいてうの家」の名誉館長を引き受けていただきました。



祝いそばの振る舞い

木の香もさわやかな「家」開館

## 高原ホテルで祝賀会

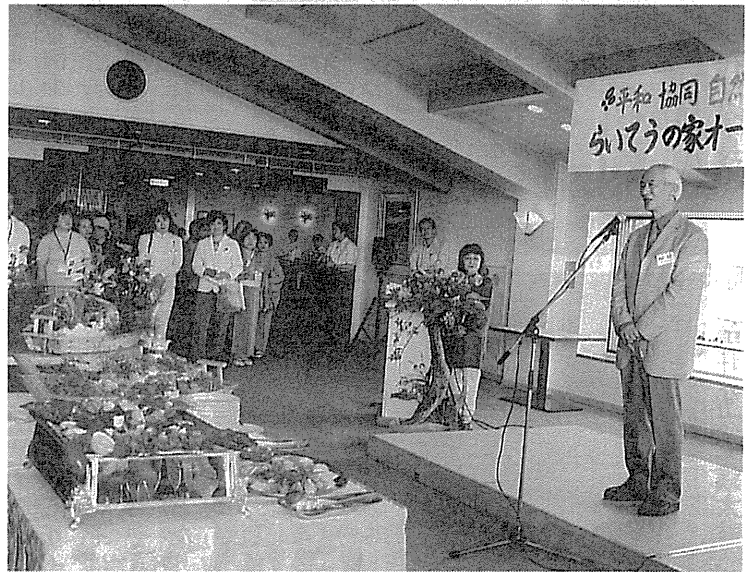
「野の花、野の鳥と親しむ気持ちのいい自由な休息所」をめざした「らいてうの家」は、地元産のカラマツが家全体と家具に使われ、木の香がさわやかです。地元らいてうの会の会員たちの手で「家」の内外に花が飾られ、円窓のある和室には茶席が設けられて、田中康夫知事、母袋創一上田市長もお点前を楽しんでいました。

つづいて開かれたあずまや高原ホテルでの記念祝賀パーティーには約三百人が出席、豪華なメニューが語り草になりました。

参加者は、平塚らいてうの孫にあたる奥村直文さんをはじめ、元日本女子大学長・青木生子さん、市川房枝記念会理事長・本尾良さん、新日本婦人の会会長・高田公子さん、婦団連会長・堀江ゆりさん（理事）、日本母親大会実行委員長・木村康子さん（理事）、名誉館長に就任された羽田



田中知事（左）と母袋市長



あいさつする奥村直文さん（ホテルで）

澄子さん。地元からは母袋市長をはじめ市の幹部の方も大勢見え、旧真田町からも柄沢衛元助役ほか多数、さらに元総理の羽田孜衆議院議員や吉川春子参議院議員など国会議員、長野県議会議員、上田市議会議員も超党派で出席されました。

よびかけ人として協力してくださった樽川通子さんや佐々木都さんなど長野県下の女性たちも多数参加、「らいてうの家」プロジェクトの女性建築士の皆さんは九人全員、建築の全責任を負った宮下組の宮下勝久社長、木材提供に献身された第三木材の島田基正会長、信州樵工房の熊崎一也さんも。「家」建設のコーディネーターをつとめた



「らいてうの家」でくつろぐ参加者

中央設計の永橋為成さん、カラマツの家具製作に協力された小田原健さん、「カラマツの家具をつくって」と大口寄付をしてくださった大河内昭子さんもかけつけました。ステンドグラスの山崎一彦さんやサンドブラスト作家の和田登喜子さんの姿も。「平塚らいてう」を語ってきた女性講師の宝井琴桜さんは「この家でぜひ一席」と心はずむお申し出。『まんが平塚らいてう物語』を描いた竹中らんこさんは原画を持参しての参加でした。この日、日本酒が好きだったらいてうにちなんで「無限生成」と名付けたお酒（三〇〇ml詰）が配られました。これは地元の女性杜氏・亀鈴（きれい）の岡崎美都里さんの醸造によるもの。

# カラマツは「太陽の子」

## 武井富喜雄さんの話を聞く

オープンセレモニー前日の五月二十七日、長野県林業総合センター森林学習展示館の前館長・武井富喜雄さんに、「らいてうの家」の建材、カラマツについてのお話を聞きました。

カラマツは、シベリヤカラマツ、ヒマラヤカラマツ、アメリカカラマツなど、世界中で約十種が生育しています。ニホンカラマツの天然林は信州を中心に生育が限られているので信州カラマツとも呼ばれています。カラマツは、日本ではヤニが出る、ねじれる、割れる、弱いなどといわれているのですが、二十年生ぐらいの若い木を使うからいけないので、二十年生以上の、せんいが長くな



「家」のホールで

った木を使えば、これほど良い木はないのです。戦争によって日本の山々はハゲ山になり戦後に植えた若い木が使われて評判を落としましたが、外国ではニホンカラマツは大へん人気があります。標高の高い雨の少ない地域ならマイナス七〇度まで育ちます。腐植の少ない土が好きなきらい

「らいてうの家」開館日

今年度は、11月6日まで毎週土・日・月曜の10時から16時開館。11月第2週から春まで休館。7月21日から8月28日までは、金・土・日・月曜開館。宿泊施設はありません。

ブナの苗木を植樹



好きなのです。スイスを中心に多いヨーロッパカラマツは歴史が古く、民話にも多く登場し、「太陽の子」と呼ばれています。スイスのある村ではカラマツは「神の子」で、毎年五月にカラマツの家に女の子たちを呼び入れ「カラマツになった」といつて立派に成長することを願います。

ヤニはカゼなどの薬に使っています。

武井さんのお話は「らいてうの家」にふさわしい内容でした。お話のあと、「家」に近い山林にブナの苗木を約三百本植樹しました。

## 「家」でのイベント予定

信濃毎日新聞にオープンセレモニーの様子が大きく報道され、県内はもちろん、旅行や登山のついでに立ち寄る見学者が多くなりました。「家」では楽しい行事をいろいろ計画しています。  
☆「森のめぐみ講座」 七月九日(日) 十時より

集合は現地。午前中草刈り、昼食バーベキュー。午後一時より特別講座「森に癒される」上原厳先生(兵庫県立大学 森林療法研究の第一人者)。参加費は昼食代のみ八百円。次回は八月二十七日(日)コカリナ作りの予定。

☆「らいてう連続講座」 講師は米田佐代子会長 毎回午後一時より「家」で。資料代三百円。①六月十七日「らいてうへの思い」②七月十五日「女性はみんな天才だ」③九月十六日「子育てらいてうの原点」④十月二十一日「ただ戦争だけが敵」 そのほか地元の方々による音楽会や坐禅会、お茶会、読み聞かせなど計画がいっぱい。くわしくはチラシ「イベント案内」をごらんください。 また今年の日本母親大会は長野市で開かれます。七月二十二日(土)分科会「らいてうが今の時代に伝えたいもの」(助言者・米田佐代子)。

## 第七回総会を開催

四月二十二日、東京ウイメンズプラザで今年度の総会を開催しました。完成した「らいてうの家」についての報告、今後の維持運営に向けての提案などを討論。真田、上田のらいてうの会長は、それぞれ「家」オープン後の運営に協力していきたいと発言。「家」名誉館長は羽田澄子監督、館長は米田会長と確認。第一回理事会で新役員を選出しました。  
会長 米田佐代子、副会長 折井美耶子、木村康子、中島邦、事務局 長 小林明子、理事 飯村しのぶ、井上美穂子、塩谷満枝、玉川みさか、花岡静枝、堀江ゆり、山田繁子、米山淳子(以上再)、杉山洋子(新)。吉岡真美理事は健康上の理由で退任しました。

「らいてうの家」を育てるために

### 「維持会員」を募集します

らいてう生誕百二十年の二〇〇六年、「らいてうの家」はみごとに建ち上がりましたが、これからの運営が大へんです。当面の開館は当会理事と地元会員のボランティアで人手を確保することにしていますが、交通・宿泊費も自弁という厳しさです。それでも光熱費や通信費、セキュリティなど維持管理の経費だけでも年間最低二百万円程度必要と思われまます。見学に見えた方々には、入場料というかたちではなく、維持管理のためのご寄付をいただくことにしましたが、それだけでは足りません。そこで皆さまからのご支援をいただきたく、「らいてうの家を育てる会」会員（維持会員）を募ることにいたしました。

維持会費は年間一口二千元から（何口でも可）とし、特別維持会費として年間一口一万元（A）、同十万元（B）を設けます。またご寄付も随時受け付け「らいてうの家基金」として修繕積み立てや事業費に活用したいと思えます。すでに特別維持会員のお申し込みも多数いただいておりますが、どうかもうひとまわりお力をお寄せください。

### 引き続き募金のお願い

「らいてうの家」の募金は二〇〇六年四月に五千万円を超えました。三千人を超える寄付者名簿のファイルは「家」に保存され、だれでも見る事が出来ます。ありがとうございます。

当初建築費三千万円以内、設計監理を含む緒経

費一千万円、備品・当面の運営費一千万円の予算でしたが、これを上回る経費がかかり、現在八百万円の借入金を運用しています。

募金総額五千九十八万円（五月末現在）、借入金八百万円、合計五千八百九十八万円に対し、主な支出（今後の予定を含む）は、建築費（門柱など追加工事等）、経費（設計監理費、交通・通信・印刷費、測量・登記等、起工式・オープンセレモニー経費等）、家具備品費（展示ケース、家具類、諸設備、電化製品等）、当面の運営費（セキュリティ、光熱費、事務費、事業立ち上げ資金等）、積み立て基金（メンテナンス、追加備品等予備費）、総計約五千五百四十八万円、借入金のうち今年度中返済分の四百四十万円を加えると五千九百八十八万円となり、さらに来年度中に借入金三百六十万円を返済するためには約四百五十万円不足します。

そこで二〇〇六年度は引き続き、「建設募金」を募りたく、もう一息ですのどうかよろしくお願ひ申し上げます。なお二〇〇七年度以降は「らいてうの家基金」の募金に切り替える予定です。

### あなたもボランティアに

「開館」受付等（土、日、月、夏期は金曜も。十時から十七時まで）。「森のめぐみ講座」運営等（植樹、草刈り、キノコ作り、学習会など）。「家」企画運営（学習会やイベントのアイデアなど）。



キノコの駒打ち

居住地、性別、年齢不問。問い合わせは事務局へ。

### 【事務局日誌】

- 3月27日 「家」企画委員会
- 3月29日 事務局会議
- 3月30日 会長と折井副会長、奥村家訪問
- 3月31日 第12回理事会
- 4月5日 「家」工事ほぼ終了、「猿」立ち会いのもと宮下組より会に引き渡し
- 4月14日 2005年度の会計監査を受ける
- 4月18日 家具・展示ケース搬入
- 4月20日 第13回理事会
- 4月22日 第7回通常総会開催・於東京ウイメンズプラザ、第1回理事会
- 4月23日 「家」の庭の整地と庭づくり
- 4月24日 「家」でキノコの話とキノコ駒打ち
- 4月25日 記録映画を上映する会理事会に出席
- 5月1日 「家」登記完了
- 5月2日 「家」企画委員会
- 5月16日 第2回理事会
- 5月27日 「家」でカラマツの話と植樹
- 5月28日 「家」オープンセレモニーと記念パーティー実施
- 6月1日 「家」企画委員会
- 6月2日 渋谷共同法律事務所30周年記念パーティーに会長出席
- 6月3日 毎週末「家」オープンスター、来館者順調
- 6月9日 二葉会（宝井琴桜さん）100回記念パーティーに会長出席
- 6月15日 記録映画を上映する会の総会に出席
- 6月23日 第3回理事会